

平成22・23年度  
熊本県教育委員会指定「生きる力」を育む研究指定校・八代市教育委員会委嘱  
学力充実推進校

# 研究紀要

研究主題

学び 高め やり抜く 生徒の育成  
～夢実現に向けた学力充実の取組～



平成23年10月27日(木)  
八代市立第一中学校

# 目次

はじめに

I	研究の概要	1
1	主題設定の理由	1
2	研究の方向性	1
3	研究主題	2
4	研究の構想	2
II	研究の実際	4
1	「学び」部会 ～授業充実プロジェクト～	4
	(1) テーマ	
	(2) 取組の柱	
	(3) 取組の内容	
	ア 学習規律の定着	
	イ 授業展開の工夫・改善	
	ウ 言語活動の充実	
	(4) 成果と課題	
2	「高め」部会 ～夢実現プロジェクト～	11
	(1) テーマ	
	(2) 取組の柱	
	(3) 取組の内容	
	ア 総合的な学習の時間	
	イ 道徳・学活	
	ウ 学校行事・生徒会活動	
	(4) 成果と課題	
3	「やり抜く」部会 ～学力定着プロジェクト～	15
	(1) テーマ	
	(2) 取組の柱	
	(3) 取組の内容	
	ア 望ましい学習習慣の確立	
	イ 望ましい生活習慣の確立	
	(4) 成果と課題	
III	研究の成果と課題	19
1	成果	19
2	課題	20

おわりに

研究同人

## はじめに

学校はいつの時代にあっても生徒が「生き生きと輝き活動する場」であり、確かな学力・豊かな心・健やかな体という調和のとれた生徒の育成が学校教育の不易の目標であります。

来年度から全面実施となる中学校新学習指導要領においても、生徒の「生きる力」の育成が基本理念として明確に示されています。中でも基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、これらを活用し課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などの能力を育むとともに、主体的な学習態度を育成することが「知識基盤社会」の時代を迎え、益々重要になってきています。

このような状況を踏まえ、本校においては「人間尊重の精神を基底におき、たくましい心身（強く）、豊かな情操（優しく）、磨かれた知性（賢く）の調和のとれた生徒を育成するとともに、すべての教育活動を通して『生きる力』を育成する」を教育目標に掲げています。そして、「夢実現 学び 高め やり抜く チャレンジ中」を教育スローガンに、学ぶ意欲を高めながら、未来を見つめ、夢を育む一中教育の実現を目指して、全職員で力を合わせて教育実践に取り組んできました。

さて、本校では、平成 22・23 年度熊本県教育委員会、八代市教育委員会より「生きる力」を育む研究指定校「学力充実研究推進校」の指定および委嘱を受け、「学び 高め やり抜く 生徒の育成 ～夢実現に向けた学力充実の取組～」をテーマに研究実践を積み重ねてきました。研究推進に当たっては、「学び部会（授業充実プロジェクト）」「高め部会（夢実現プロジェクト）」「やり抜く部会（学力定着プロジェクト）」の3つの研究部会を設け、支え合いの中で互いに磨き高め合いながら指導力の向上に努めて参りました。

これまでの2年間の研究実践は、まだまだ研究途上で十分な成果を発表する段階にありませんが、研究の一端を通し本校生徒の夢実現に向かって努力する姿や生徒を導く熱意あふれる教職員の姿をご覧いただき、皆様方のご指導ご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。本日の学びを今後の研究実践や豊かな学校づくりに生かして参ります。

最後になりましたが、本研究の推進に当たりこれまでご指導・ご助言を賜りました熊本県教育委員会、八代教育事務所、八代市教育委員会をはじめ、ご協力をいただいた先生方、本校 PTA の皆様方に心から感謝し厚くお礼を申し上げます。

平成23年10月27日

八代市立第一中学校 校長 太田篤洋

## I 研究の概要

### 1 主題設定の理由

#### (1) 今日的な教育的課題から

新学習指導要領の全面实施を控え、「生きる力」の重要性が謳われている。また、確かな学力・豊かな心・健やかな体、すなわち知・徳・体という教育の不易の部分が再びクローズアップされている。さらに、PISA 調査の結果から知識・技能の確実な習得とその活用、思考力・判断力・表現力などの育成が学校教育で求められている。

#### (2) 本校の実践三綱領と教育目標・教育スローガンから

本校の実践三綱領は「至誠貫徹・真理探求・耐久持続」であり、創立以来 64 年間堅持されてきた。さらに、「人間尊重の精神を基底におき、たくましい心身（強く）、豊かな情操（優しく）、磨かれた知性（賢く）の調和のとれた生徒を育成するとともに、すべての教育活動を通して『生きる力』を育成する」という教育目標を設定した。そして、この教育目標の浸透を図るために、「夢実現 学び 高め やり抜く チャレンジー中」という教育スローガンを掲げた。これは、生徒たちが「夢実現」に向け、「学び・高め」ながら、何事も最後まで「やり抜く」、困難な事にも「チャレンジ」していく姿を目指している。また、生徒だけでなく教師も高い志を持ち、自ら「学び・高め」、指導をあきらめずに「関わり抜き」、課題に対して常に「挑戦」していくことも目指している。

#### (3) 本校の実態から

##### ア 大規模校としての実態

本校は八代市の中心部に位置し、生徒数約 800 人、職員数約 60 人の大規模校である。生活環境や価値観が多様で、生徒も職員も組織の一員としての自覚と実践が求められる。

##### イ 生徒の日常的な実態

生徒は概ね落ち着いた生活態度で、学習に前向きに取り組んでいる。しかし、様々な知識や情報を総合し、自分の考えをまとめ、発信する思考力・判断力・表現力に課題が見られる。

##### ウ 学力の数値的実態

全国標準学力検査では全国標準に近い値を示しているが、熊本県学力調査では、ここ数年間、県平均を下回っていた。

### 2 研究の方向性

#### (1) 実践三綱領と学校教育スローガンの関連づけ

三綱領と教育スローガンのキーワード、そして三つのプロジェクトを次のように整理した。

「真理探求」＝「学び」 → 「授業充実プロジェクト」

「至誠貫徹」＝「高め」 → 「夢実現プロジェクト」

「耐久持続」＝「やり抜く」 → 「学力定着プロジェクト」

#### (2) 三つのプロジェクトの重点取組事項

「授業充実プロジェクト」 → 思考力・判断力・表現力の育成

「夢実現プロジェクト」 → 夢実現に向かう生徒の育成

「学力定着プロジェクト」 → 望ましい学習習慣と生活習慣の確立

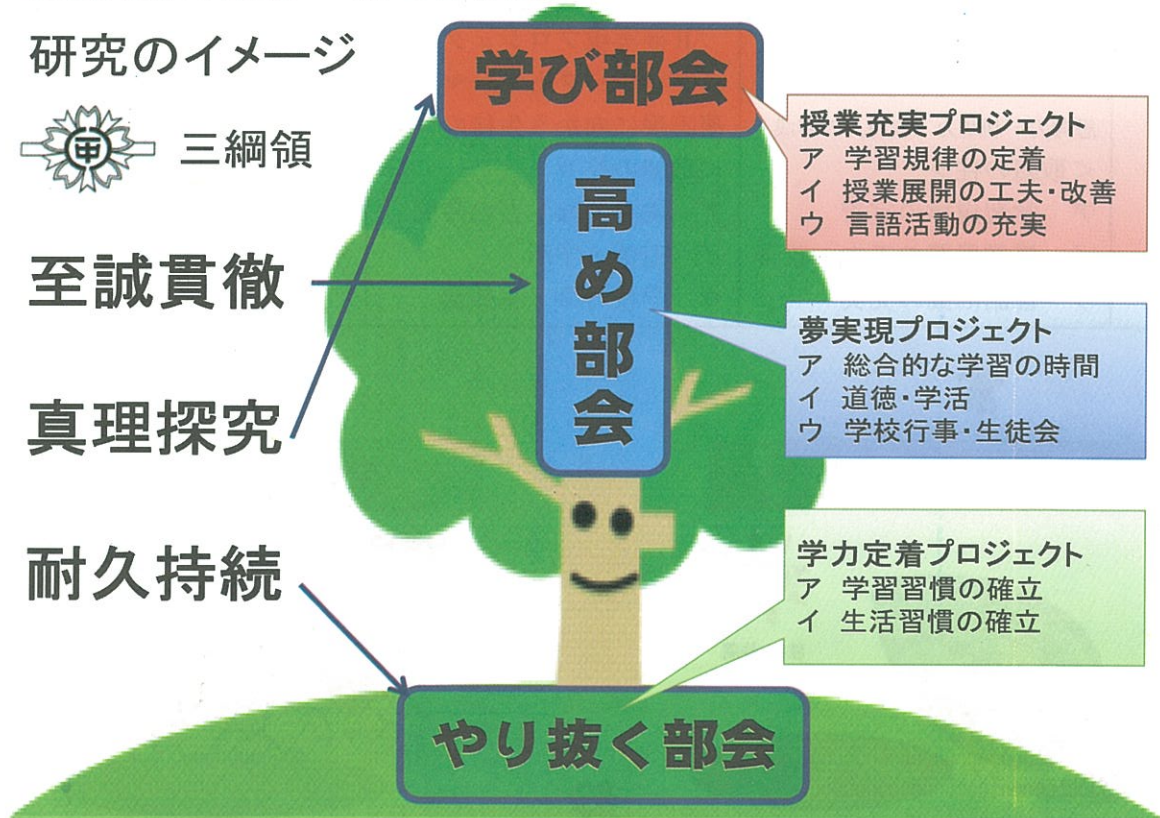
# 学び 高め やり抜く 生徒の育成

～夢実現に向けた学力充実の取組～

## 4 研究の構想

### (1) テーマ実現のイメージ

夢実現に向けた学力充実の姿を一本の樹木でイメージした。日光を浴びながら必要な栄養を創り出していく「葉」に当たる部分をⅠ「学び」部会（授業充実プロジェクト）、夢や目標に向かって伸びていく「幹」に当たる部分をⅡ「高め」部会（夢実現プロジェクト）、地上に見えない「根」に当たる部分をⅢ「やり抜く」部会（学力定着プロジェクト）とした。この3つのプロジェクトを推進していくことが主題に迫っていくと同時に、学校スローガンの実現・学校教育目標の具現化につながると考えた。

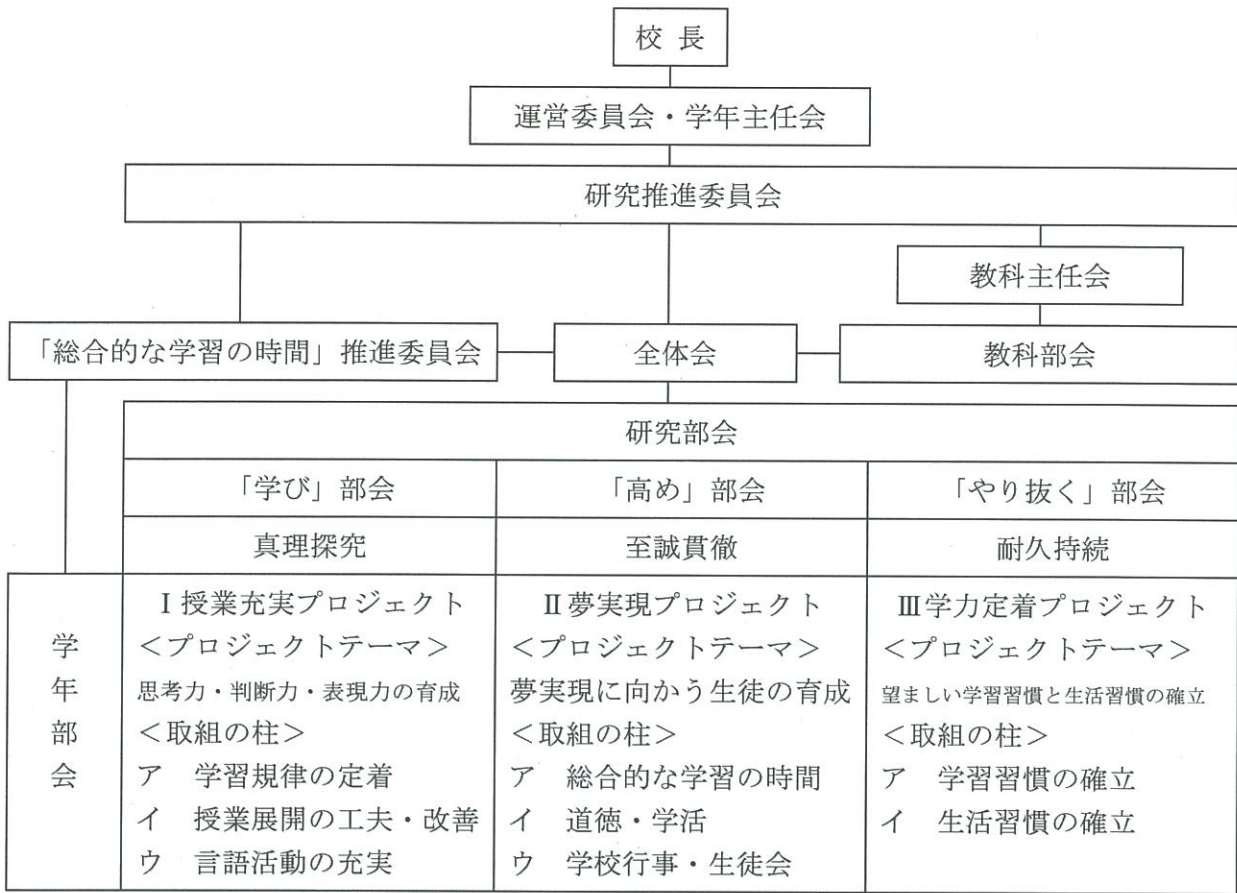


【図1：研究全体のイメージ図】

### (2) 仮説

- ①徹底指導・能動型学習，習得・活用を意識した授業を展開し，言語活動を充実させた授業を実践していけば，思考力・判断力・表現力が高まるであろう。（Ⅰ授業充実プロジェクト）
- ②生徒に夢を持たせ，夢実現のための目標を設定させ，チャレンジしていく態度を育てていけば，学習に積極的に取り組むであろう。（Ⅱ夢実現プロジェクト）
- ③生徒に学ぶ意義を理解させ，学び方の指導と適切な評価をし，学校と家庭が連携して生活習慣の改善に取り組めば，望ましい学習習慣が確立するであろう。（Ⅲ学力定着プロジェクト）
- ④「授業充実プロジェクト」「夢実現プロジェクト」「学力定着プロジェクト」の3つの取組が相互に関連しながら機能していけば，一中学生徒の学力が充実していくであろう。

(3) 研究組織



葉

根

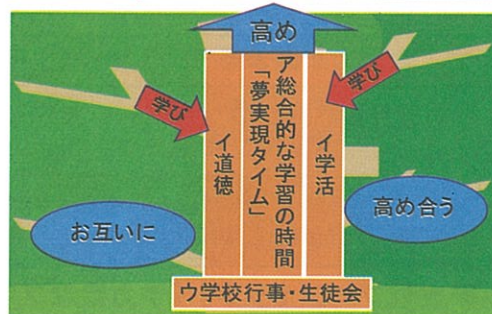
授業充実プロジェクト

学力定着プロジェクト



幹

夢実現プロジェクト



3つのプロジェクトを推進し、機能させていくことで「夢実現」に向けた大きな樹木を育てていく。

II 研究の実際

1 「学び」部会 ～授業充実プロジェクト～

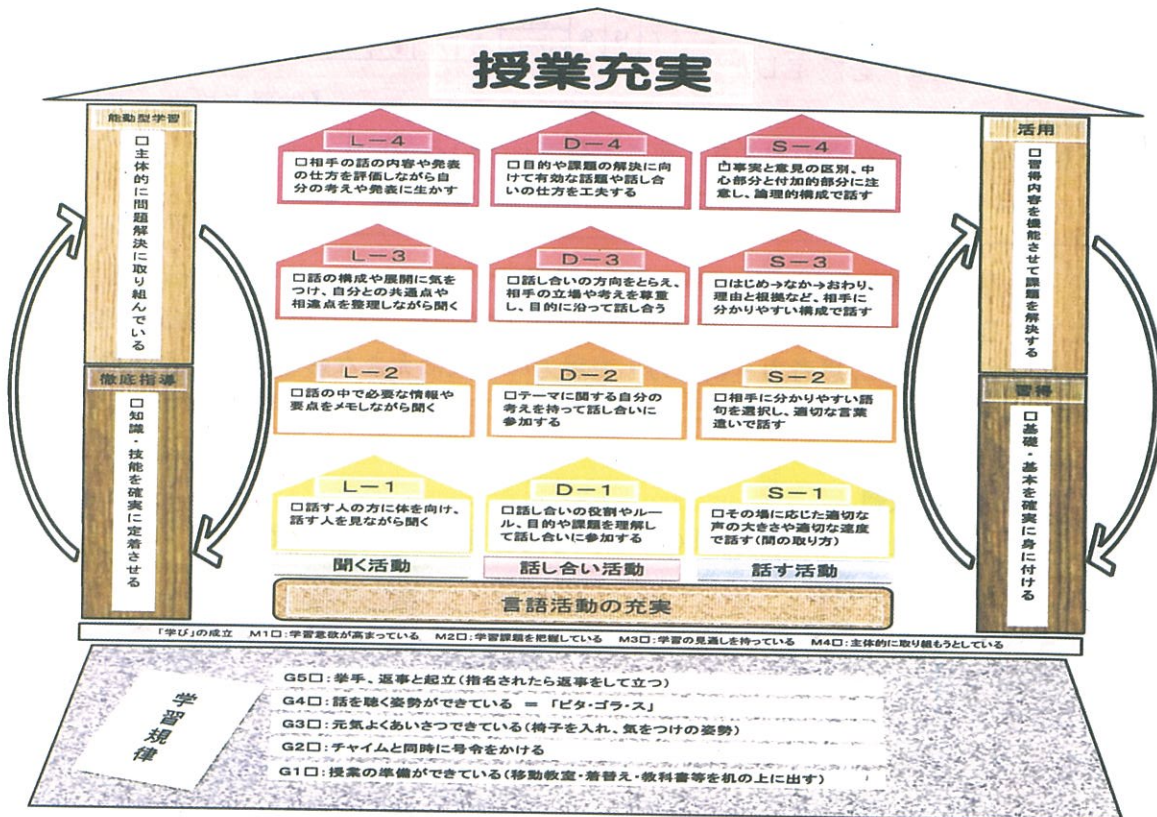
(1) テーマ

# 真理探究

## 思考力・判断力・表現力の育成

(2) 取組の柱

- ア 学習規律の定着（授業充実を支える学習規律の徹底）
- イ 授業展開の工夫・改善（徹底指導と能動型学習とのめりはりをつけた授業展開）
- ウ 言語活動の充実（思考力・判断力・表現力を高めるための言語活動の推進）



【図2：授業充実プロジェクトの構想図】

(3) 取組の内容

ア 学習規律の定着

(ア) 共通実践事項の設定

学習規律は「学び」の土台として重要な要素である。本校の生徒心得を基本とし、生徒の現状を踏まえ、部会の中で内容を検討していった。生徒・教師ともに意識を持って取り組むべきことを端的なキーワードで示すことにした。「学習規律」の頭文字Gをとり、次のG1～G5の5項目を設定し、共通理解・共通実践した。

- G1：授業準備（授業の準備ができていますか）
- G2：チャイム（チャイムと同時に号令をかけているか）
- G3：あいさつ（元気よくあいさつができていますか）
- G4：ピタゴラス（姿勢はできていますか）
- G5：挙手・返事（指名されたら返事をして起立しているか）



【学習規律カード】





## (ウ) 各教科における実践例

### a 理科における取組

理科の観察・実験では生徒が目的意識を持って、主体的に行うことが重要であると考  
えた。理科では「J4：能動型学習の場」を重点的に取り組んだ。

#### <授業例> 3年1分野6単元A章「水溶液とイオン」

##### (a) 見通しを持たせる工夫…J4

実験においては必ず自分なりの予想を立てさせる。様々な意見が予想される場合は班で話し合い活動を行った。その際、ホワイトボードや模造紙を用い、表現する活動の機会を設け、学習意欲の向上を図った。

##### (b) 自作教材の活用…J4

授業で行う実験は、生徒の実態や授業形態に合わせて自作教材を活用した。この単元では自作の電気泳動装置を用いることで学習意欲の向上を図った。同時に、実験時間の短縮を図ることができ、学習のめあてを明確に把握させ、時間内に課題を解決させることができた。自作教材の活用に当たってはアンケートや普段の授業で形成的評価を積み重ね、生徒の実態に合わせることを意識した。



【予想の発表】



【自作教材による実験】

### b 数学科における取組

数学科においては、「J3：徹底指導の場」と「J4：能動型学習の場」をいかにめ  
はりをつけて授業展開していくかを重点的な課題として取り組んだ。

#### <授業例> 1年第2章「文字の式」第3節「関係を表す式」

##### (a) 徹底指導の場の工夫…J3

教師が授業の中のこの場面では徹底指導をした  
と考えていても、生徒に学ぶ姿勢や態度が育っ  
ていないと教師のねらい通りの成果は上がらない。  
そこで、授業の導入では、教師の話をきちんと聴  
く体制が整った中で、本時のめあてを黒板上部に  
明確に提示し、授業展開に入っていくように努め  
た。また、授業終盤には、本時で学んだことが確実  
に定着できるよう、演習の時間を十分に確保する  
ようにした。そして、その演習の時間を活用して  
理解の遅れている生徒への個別の支援にあたるよ  
うに努めた。



【個別支援の様子】

##### (b) 能動型学習の場の工夫…J4

能動型学習の場では、特に多面的に考えられる  
課題（1つの問題から複数の等式や解法が導かれ  
るなど）を大切にしたい。ペア学習や班活動を取り  
入れながら、小さなホワイトボードを活用するなど、  
積極的に生徒の発言や説明の場を設け、表現するこ  
とへの意欲の向上を図っていった。



【発言・説明の場】

ウ 言語活動の充実

(ア) 話し合い活動の充実の工夫

a 「聞く・話す・話し合う」に関する一覧表の作成

言語活動は知的活動（論理や思考）やコミュニケーションの基盤であり、教育活動全体を通じて、その充実に取り組んでいくが、特に教科の授業での取組が大切となる。授業では「話し合い活動」を効果的に取り入れ、その内容の充実を図った。具体的には各教科で話し合う目的・方法、どんな言語活動を行うかを明確にし、授業の中に位置づけ、思考力・判断力・表現力を育成し、各教科等の目標達成を目指した。その際、「聞く・話す・話し合う」における基本となる技能や生徒の姿を共有できるように一覧表を作成し、目指す生徒の姿や身に付けさせたい技能を4つの段階で示した。話し合い活動の中で生徒は発表・説明・報告・記録・要約などを経験でき、学習内容や発達段階に合わせて討論・提案・論述・批評などの言語活動につなげることができると考えた。

b 「話し合い活動カード」の作成

話し合い活動を充実させるために「話し合い活動カード」を作成した。カードには話し合い活動時の役割・流れ・発言のヒント（発表の基本型）、聞く時・話す時の留意点を載せ、主に授業では小集団での話し合い活動に使用した。基本的な技能の習得と同時に、教科の目標の達成や思考の深まりを目指した。

これで安心話し合い活動カード

★役割と仕事内容		司会の進め方の例	
①	司会	話し合いの目的や手順を把握し、時間配分を考え、話し合いを進行する ●班員に意見を求め、意見をつないだり、話し合いの方向を修正したりする ●出された意見を目的に沿って整理し、まとめる	今から〇〇について話し合いを始めます。
②	記録	出された意見の要点を把握し、記録する。話し合いでまとめた意見を確認する	〇〇についてそれぞれの意見を出してください。
③	発表	班で話し合った内容やまとめた意見を全体に分かりやすく報告・説明・提案する	今出された意見に質問はありませんか。
④	意見	●意見を出し合うとき始めに発表する	今までの出された意見を（仲間分け・比較）したいと思います。
★話し合いの流れ		〇〇について反対、賛成意見や気づいたことはありませんか。	
流れ	話し合いの具体的な手順	これまでの話し合った内容をまとめると……	
はじめ	① 話し合いの目的（テーマ）や手順を確認する。	記録係は決まった意見を報告してください。発表者は〇〇さんです。	
なか	② それぞれの意見を出し合う。		
	③ それぞれの意見について質疑応答を行う。		
	④ 出された意見を整理する。		
	⑤ 手がかかり・・・N（仲間分け）H（比較する）K（関連づける）		
	⑥ 気づきや意見を出し合い、班の意見をまとめる。		
おわり	⑦ 話し合った内容や決定事項を確認し、全体発表の準備をする。		
★発言のヒント		聞き技 7	
●自分の意見を述べるときは理由や根拠をしっかりと述べる 私（僕）は～だと思います。理由（根拠）は……だからです。 私（僕）は～に賛成（反対）です。理由（根拠）は……だからです。 ●相手の発言内容がよくわからなかったら、説明を求めよう 〇〇さんの発表がよくわからなかったのもう一度お願いします。 〇〇さんに質問します。その意見の～はどういう意味ですか。 ●補足・言い直しをするとき 私は〇〇さんの意見に付け加えます。それは～ということです。理由は……だからです。 私は〇〇さんの意見は～とも書えると思います。 ●比較するとき この意見と同じ（違う）ところは〇〇です。 〇〇と△△の同じところ（違い）は～です。 ●気づき（予想・推測）を発表するとき その意見だと、～になると思います。理由は……だからです。 〇〇が……ならば、△△も……だと思います。		話し技 7 話すときは…… ①聞こえる声の大きさで ②聞きやすい速さで ③顔を向けて ④発音をはっきりと ⑤七ヶゴラスで ⑥目線は聞き手に ⑦相手や場面で 適切な言葉遣いを ⑧発表は意見一理由・根拠で ⑨話し始め～なか～おわりで	

【話し合い活動カード】

(イ) 指導案形式の工夫

指導案の単元指導計画に「言語活動」を明記し、計画的にその充実を図っていった。また、1時間の授業展開の中に「言語活動の意図」という部分を設定し、「何のために」「どの場面で」「どのような」言語活動を行っていくのかを、指導者が明確に意識して授業に取り組んだ。

<社会科の例> 第4章「近世の日本」 第3節「産業の発達と幕府政治の動き」

時	学習内容	観点	具体的評価規準（B基準）
1	農業や諸産業の発達 ＜言語活動＞ ◇地図から読み取る	関・意・態	江戸時代の産業の様子について関心を高めている ※当時の「八代」はどんな町として栄えたのか？
4 本 時	幕府政治の改革 ＜言語活動＞ ◇狂歌を解釈する	思・判・表	田沼と松平の政治を比較し、改革の目的を考察している ※「白河の清きに～」の狂歌はどのような意味か？

中心発問→「白河の清きに魚の住みかねてもとの濁りの田沼恋しき」とはどういう意味か？

◇言語活動の意図 →狂歌を解釈することで、2人の政治を比較し、改革の特色をとらえさせる

## (ウ) 各教科における実践例

### a 国語科における取組

国語科では、以下の①～④を取り入れた授業を実践していった。

- ①感じたことや考えたことを言葉で表現すること（朗読・発表など）
- ②事実や理解したことを正確に伝え合うこと（説明・報告など）
- ③事柄について分析・評価・論述すること（課題を整理し、要約するなど）
- ④互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを高めあうこと（討論など）

#### <授業例>第2単元 真実を語る 本の世界を広げよう「ゼブラ」（2年）

##### (a) 主な言語活動

生徒一人一人の読みを広げるために「この作品で感じたメッセージは何か」という課題でグループディスカッションを行った。役割や流れについては「話し合い活動カード」を活用した。

##### (b) 授業の様子

話し合い活動の前に個人で自分の考えとその根拠をまとめさせた。つまずきが見られる生徒には「ヒントカード」を提示したり、話し合いの場面では「話し合い活動カード」を活用したりしたため、進行がスムーズにでき、主体的に意見を出し合う姿が見られた。班ごとに出た意見も作品の主題をとらえているものが多く、根拠も述べることができていた。グループディスカッションを取り入れたことで、生徒全員が発表・説明（分析・評価）・報告などの言語活動を通して、各自の読みを広げることができた。



【話し合い活動の様子】

### b 社会科における取組

社会科においては「読取」「解釈」「説明」「論述」の4つを必要な言語力ととらえ、学習活動の中に位置付けた。また、個人で思考した後小集団で話し合う活動も積極的に取り入れ、学びを深めたり、考えの根拠を明らかにした発言を引き出すことも意識して取り組んだ。

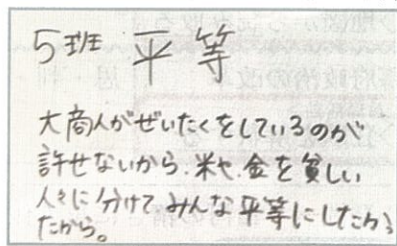
#### <授業例>第4章「近世の日本」第3節「産業の発達と幕府政治の動き」

##### (a) 主な言語活動

「社会的事象の解釈」という意図で、「大塩の乱の時に使われた『旗』には何と書いてあったのだろうか（漢字2文字）」という発問を行った。班で話し合う活動を行い、考えた根拠を書かせることで大塩の思いに迫れるようにした。

##### (b) 授業の様子

漢字2文字に限定したことで、苦勞していた生徒たちだが、「何のための乱なのか・大塩の思いは何か」という補助発問により、資料集を深く読み込み大塩の思いを探ろうとしていた。正解は出なかったが、解答の根拠を書くことはできていた。教師から「救民」という正解が提示された時には「なるほど」という感嘆の声もあがり、関心をもって授業に参加していることが分かった。大塩の思いを考えることにより、幕府の権威が衰え、政治の行き詰まりの過程をとらえ、本時のねらいに迫ることができた。



【ボードに書かれた内容】

(4) 成果と課題

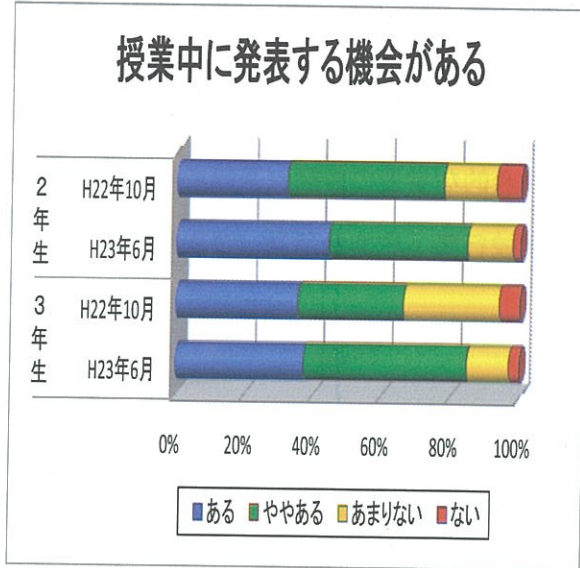
ア 成果

- 学習規律に関しては確実に意識が高まってきた。点検カードの評価も当初はBやCが多かった項目もAが増えてきた。また、BやCが多かったクラスも委員や担任の呼びかけでAが増えてきた。「今日はオールAをめざすぞ!」とその日の目標としているクラスもあった。何より、教師が同じ評価規準で生徒を観察し、共通した視点で生徒を指導することができるようになったこと、生徒が学習規律の大切さを認識してきたことが大きな成果である。
- 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果(以下「生徒質問紙」)では、「授業中に発表する機会がある」と答えた生徒も増加してきており、生徒主体の授業改善に向けて動き出しつつある。また、自分の考えを説明・書くことについての苦手意識も改善されてきつつある。

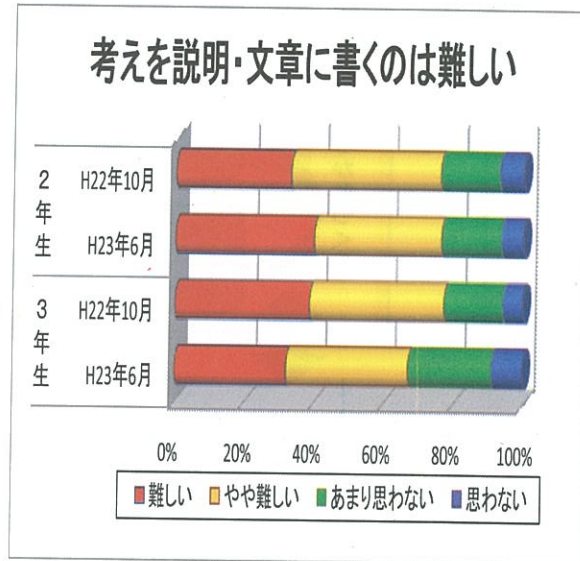
【グラフ1】 【グラフ2】

- 「話し合い活動カード」を取り入れた授業実践を行っていったことにより、話し合いがスムーズに進むようになってきた。また、指導案形式の工夫により、各教科ごとの言語活動が整理され、言語活動を意識した取組が増加してきた。

【グラフ1】



【グラフ2】



イ 課題

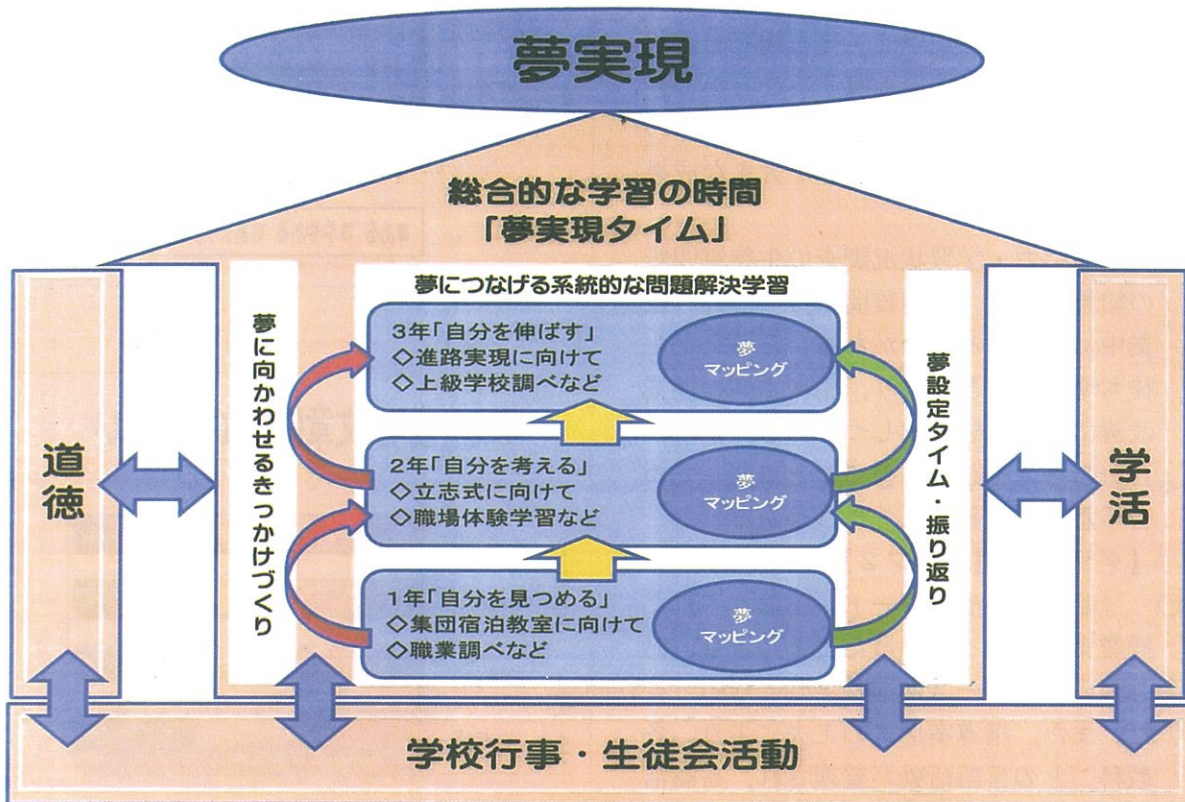
- 点検中の学習規律の項目は意識が高まり評価も上がるが、点検がない時や項目設定がなされていない時には意識が低下する傾向がある。「なぜ大切なのか」という本質的な部分を教師が説諭していくと同時に、当たり前のことが当たり前のようになれるまで取組を継続していく必要がある。
- 学習規律の定着によって落ち着いた雰囲気の中で毎日の授業が進められるようになってきたが、主体的に学ぶ生徒の育成をどのように図っていくのか、思考力・判断力・表現力をどのように育成していくのか、個人差にどのように対応していくのかは、さらに研究を深めていかなければならない。
- 言語活動の充実に向け、授業では話し合い活動を積極的に取り入れていったが、「どの場面で」「どのように」取り組ませるかについてはさらに研究が必要である。また、依然として半数以上の生徒が自分の考えを説明したり書いたりすることを難しいと回答している。説明したり書いたりすることへの抵抗を少なくしていく指導の工夫が必要である。

(1) テーマ

**夢実現に向かう生徒の育成** ○夢を持ち、夢を育てることができる生徒  
 ○夢実現に必要な力の高まりを実感できる生徒

(2) 取組の柱

- ア 総合的な学習の時間（系統的な総合的な学習の時間「夢実現タイム」の実践）
- イ 道徳・学活（「夢実現タイム」との関連を図った各学年の道徳・学活の実践）
- ウ 学校行事・生徒会活動（夢実現プロジェクトに関する実践）



【図3：夢実現プロジェクトの構想図】

(3) 取組の内容

ア 総合的な学習の時間（系統的な総合的な学習の時間「夢実現タイム」の実践）

(ア) 「夢実現タイム」の全体構想

各学年の「夢実現タイム」の学習内容を「夢へ向かわせるきっかけづくり」、「夢につながる系統的な問題解決学習」、「夢設定タイムと振り返りの時間」の3つで構成し、他領域などに関連付けることで、学校生活全体が夢実現に向けた学習の場となるようにした。また、育てたい能力として「ふれ合う力・探究する力・計画する力・行動する力」の4つを設定した。

(イ) 夢へ向かわせるきっかけづくり「その行けえー中講演会」

生徒に夢を芽生えさせることをねらい、生徒にとって魅力ある著名な方を講師に招き、一昨年度より年3回ずつ実施してきている。事前・事後指導の充実を図ることで、講演では活発に質問したり意見を発表したりする生徒の姿が見られた。夢実現への意欲の高まりは、講演後のアンケートからも確認できた。



【一中講演会の様子】

## イ 道徳・学活（「夢実現タイム」との関連を図った各学年の道徳・学活の実践）

### （ア）第1学年の実践例 ～職業調べに向けて～

#### a 自分マッピング…学活

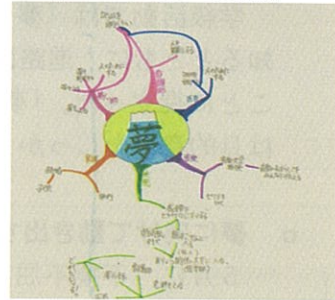
「自分マッピング」を作成し、自己の長所を考える学習の実施後、仲間の長所を探し、言葉にして伝え合う活動を行った。この活動で新たな自分のよさを発見し、自己肯定感の高まりを生徒の様子や授業後の感想から確認できた。



【よさ発見の授業】

#### b 夢マッピング…総合的な学習の時間

夢を具体的に捉えさせるために、「夢マッピング」を作成した。自分の夢をしっかりと見つめることができたが、夢実現の方法まではかけない生徒も見られた。今後実施する職業調べの活動をとおして、中学校生活の中で何をすべきかを見つめさせていく。再度「夢マッピング」を行い、自分への理解を更に深めていく。



【夢マッピング】

#### c 働くことの意義・礼儀…道徳

職業調べの学習にあわせて、「働くことの意義」や「礼儀」についての道徳の授業を行った。職業調べの活動の中で感じたことや考えたことを道徳の時間の話し合いに生かすことで指導の場をつなげ、生徒の関心を高めながら道徳的価値についての理解を深めていった。

### （イ）第2学年の実践例 ～職場体験学習に向けて～

#### a 夢マッピング…総合的な学習の時間

自分の特性を知る「自分マッピング」、夢の実現までの道筋を考える「夢マッピング」を指導計画に位置付け、目的意識を持った事業所選びにつなげられるようにした。

#### b 夢を持ち続ける生き方…道徳

職場体験学習と関連付けて、道徳では夢を持ち、それに向かって努力することの尊さを考える学習を行った。「夢マッピング」作成後、職場体験学習の事業所を決める前に授業を行うことで、職場体験学習の意義も深められると考えた。「夢はまだないが職場体験学習を通して見つけたい」「夢に向かって何をすべきか見えてきた」などの感想から、生徒の実践意欲の高まりを確認できた。



【道徳の授業】

#### c 職業について考えよう…学活

学級活動では生活と職業の関わりや職業の適性について学習した。職業の特性と自分の適性を対比させる学習をとおして、生徒は事業所選びの視点を持つことができた。

#### d 職場体験学習…総合的な学習の時間

アンケートを基に受け入れ先を確保し、オリエンテーションで学習の見通しを持たせた。事業所決めの際は、再度アンケートをとり、夢実現につながる事業所を判断し、選択するように指導した。事業所ごとに職場体験学習の心構えや電話のかけ方、訪問の仕方などのスキル学習を行い、実際の体験に備えた。

## (ウ) 第3学年の実践例 ～進路実現に向けて～

### a 夢マッピング…総合的な学習の時間

中心から伸びるブランチには、「夢・自分の性格・好きなもの・支えてくれた人」の4つを夢実現の視点として与えた。視点を与えることで、夢実現に向けての方策を具体的・多面的にとらえることができた。



【伸びるブランチ=枝】

### b 進路を考える…学活

学級活動では「夢マッピング」を互いに見せ合う活動を行った。互いの夢や進路を知るとともに、進路についての希望や悩みを共有し合う機会となり、相互理解を深めることに役立った。「夢マッピング」によって自分の進路に見通しが持てたことで、生徒は目的意識をしっかりと持って上級学校調べの学習に臨むことができた。

### c 夢に向けて動き出す…道徳・総合的な学習の時間

5月に「不撓不屈」、6月に上級学校調べと関連付けて「個性の伸長」「理想の追求」、7月に体験入学と関連付けて「礼儀」を主題に道徳の授業を行った。また、教育実習生に中学当時の夢や夢実現に向けて努力したことを話してもらった（夢実現タイム）。生徒は体験に基づく話に熱心に耳を傾け、夢実現への意欲を高めていった。



【教育実習生の講話】

## ウ 学校行事・生徒会活動（夢実現プロジェクトに関する実践）

### (ア) 夢設定ウィーク・夢設定タイム

学年始めの時期を「夢設定ウィーク」として、新たな仲間と将来の夢や希望を語り合う取組を全校で行った。夢設定ウィーク最終日の「夢設定タイム」では、将来の夢や今年度達成したい目標を設定する機会をつくった。学校行事などを考慮し、目標を達成するための具体的な計画を作成することで、学校生活に課題意識を持って取り組めるようにした。

また、実践を評価し、計画を見直すための振り返りの時間を学期ごとに設定した。一連の学習の流れはワークシートに記録し、道徳や学級活動の資料とともに個人のファイルに綴じさせ、3年間の学習の足跡として蓄積するようになった。

### (イ) 学校行事と関連づけた取組

運動会や文化祭では、生徒が主体的に取り組める場を多く設定した。「夢実現タイム」では、事前に個人の目標・計画づくり、事後には振り返りの学習を行い、学校行事の取組をその後の学校生活に生かせるようにした。運動会・文化祭後のアンケートでは、「達成感を味わうことができた」と答えた生徒は95%以上となった。



【運動会のフィナーレ】

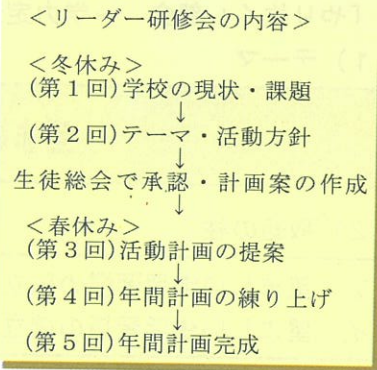
### (ウ) 生徒会活動の活性化に向けた取組

#### a 生徒主体の夢実現プロジェクトの推進

夢実現に向けた取組を全校生徒の主体的な取組に高めるために、生徒会を中心に、様々な継続的实践を行った。一日の始めと終わりの放送、集会での呼びかけ、掲示物の工夫など、日常的な啓発を通して、「夢実現 学び 高め やり抜く チャレンジー中」という教育スローガンを生徒自身のテーマとして深く浸透させることができた。

## b リーダー育成に向けた取組

冬休みや春休みにリーダー研修会を実施した。生徒会執行部、各委員会の委員長・副委員長が集まり、よりよい学校づくりのためのアイデアを出し合い、活動計画を練り上げていった。会を重ねるごとにリーダーとしての自覚が高まり、具体的な計画と高い意欲を持って4月からの活動を開始できた。リーダーの前向きな言動が学校全体を夢実現に向かわせる牽引力となった。



## c 「生徒会の活動サイクル」の整備

生徒が主体となってよりよい学校づくりに取り組めるように、委員会活動と朝の学級会・生徒議会を連動させた。毎月の委員会活動の翌日に朝の学級会の時間を設定し、各学級で委員会からの活動報告を基にした話し合い活動を行った。クラスの意見は代議委員が生徒議会で報告し、議会での議論内容は集約して各学級と全職員に配付した。生徒会の活動サイクルの整備によって、生徒会活動への参画意識が高まり、生徒と職員が課題を共有し合いながら、よりよい学校づくりを推進できるようになった。

## (4) 成果と課題

### ア 成果

- 今年度6月に実施した生徒質問紙によると、「夢や目標を持っていますか」という質問に対し、「当てはまる」と答えた生徒の割合が高まってきている。【グラフ3】

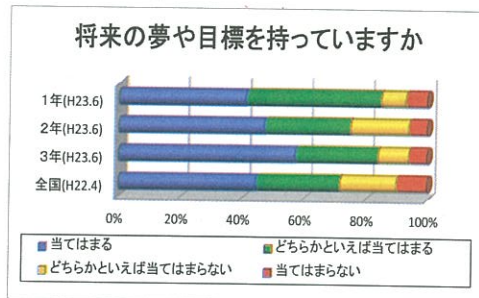
また、「自分にはよいところがある」「失敗をおそれずに挑戦している」「やり遂げてうれしかった経験がある」と自己を肯定的に捉える生徒の割合が昨年度から増加してきた。

- 昨年度実施した夢実現プロジェクトに関するアンケートでは、夢実現に必要な能力（育てたい能力）が身に付いたと実感する生徒は学年が上がるごとに増加し、「夢実現タイム」を中心とした体系的な取組の効果を確認できた。【グラフ4・5】
- 今年度1学期の学校評価において、「生徒の夢実現に向けての指導・支援」「生徒会活動の充実」の項目については全職員の95%以上が「満足」と高く評価し、指導する職員の高い意識が伺えた。

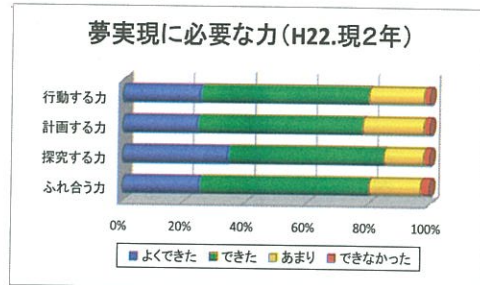
### イ 課題

- 夢実現に向けて具体的に動き出す生徒もいるが、行動に結びつかない生徒もいる。学習面でも計画的な取組で成績を向上させる生徒もいるが、成果に結びつかない生徒もいる。今後、個に応じた指導について研究を深めていく必要がある。
- 夢を育む教育に当たっては、小学校や地域・保護者との連携を図ったり、先進的な取組に学んだり、専門家の指導・助言を求めたりしながら研究を重ね、よりよい取組へと高めていきたい。

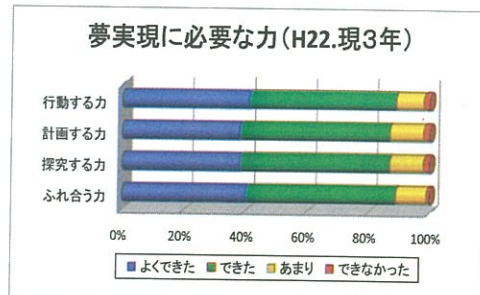
【グラフ3】



【グラフ4】



【グラフ5】

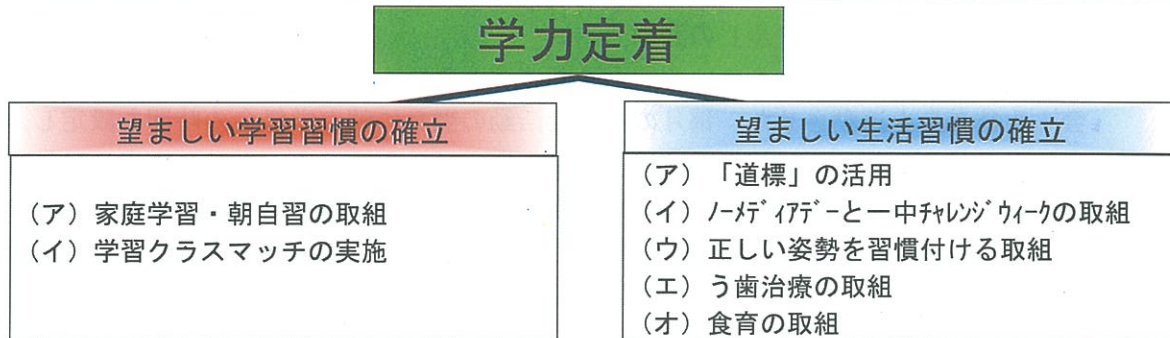


(1) テーマ

望ましい学習習慣と生活習慣の確立

(2) 取組の柱

- ア 望ましい学習習慣の確立（平日の家庭学習に1時間以上取り組む生徒）
- イ 望ましい生活習慣の確立（定時起床・朝食摂取・学習準備・定時就寝を身に付けた生徒）



【図4：学力定着プロジェクトの構想図】

(3) 取組の内容

ア 望ましい学習習慣の確立

(ア) 家庭学習・朝自習の取組

学力の向上には、家庭学習の習慣の定着が不可欠である。そのため本校では、1年生のときから全生徒に家庭学習を毎日取り組ませている。1・2年生では、基本的に1日1ページ以上の家庭学習を行うようにした。2年生の2学期からは、進路対策学習に取り組んでいる。家庭学習の習慣の定着には、毎日の継続的な指導が必要である。多忙な中で指導を徹底するために、学年職員で仕事を分担し組織的に取り組んだ。役割分担をすることで、効率よく指導に当たることができた。また、長期休業中も学年単位や部活動単位で補充学習に取り組んだ。

さらに、質の向上を図るために、1年生の4月に学習の仕方のガイダンスを行い、1か月の計画表を各教科担当が作成し、生徒に配付した。生徒は授業内容に即した家庭学習を効果的に行っている。2年生では、平日は曜日ごとに教科を決めて家庭学習を行うが、土・日は家庭学習の教科や内容を自分で考えさせて取り組ませている。学年が上がるとともに、自分で考えて自学自習をする習慣を身に付けさせたいと考えたからである。

また、家庭学習とともに朝自習の質の向上を図るため、授業に即した課題や家庭学習の課題の復習などを朝自習で取り組ませた。

	担当者
課題の計画作成	各教科担当
回収（朝の会）	担任
チェック（空き時間）	学年主任・副担任
返却（帰りの会）	担任
未提出者指導（放課後）	学年職員輪番で対応

【家庭学習の取組の役割分担】

平成23年6月 2年生 家庭学習計画表

月	火	水	木
国語	理科	英語	社会
		1	2
		Lesson 1-3の文と新出単語をひらき書く	社会の自主学習(歴史) P.42-45をノートに解いてくる(答えのみ)
6	7	8	9
学習クラスマッチの勉強。1人1人個別に指導。	理科問題集 P.1〜7の中の問題を自分で1人1人解決	テスト勉強	テスト勉強
13	14	15	16

【家庭学習の計画表】

## (イ) 学習クラスマッチの実施

昨年度から学習委員会による学習クラスマッチを行い、1・2年生で英単語クラスマッチを実施した。今年度は、1学期は漢字クラスマッチ、2学期は計算クラスマッチ、3学期は英単語クラスマッチを計画している。

1学期に行った漢字クラスマッチでは、学習委員、国語科担当や担任の先生の呼びかけで学級単位で熱心に勉強に励む姿が見られた。漢字クラスマッチの平均点も50点満点中、1年生48点、2年生46点、3年生45点と大変高く、満点の生徒も全学年で251人いて、かなりの成果があった。

## イ 望ましい生活習慣の確立

### (ア) 「道標」の活用

望ましい生活習慣・学習習慣を身に付けるために「道標」という本校独自の生活ノートを使っている。「道標」には、明日の時間割や日記の欄だけでなく、起床・就寝時刻や学習開始時刻、家庭学習の内容や時間なども記入できるようにした。また、生活のきまりや学習の仕方なども掲載した。職員や生徒の意見を参考にしながら、生徒の実態に合わせて毎年少しずつ改訂している。

4月当初に「道標」の活用方法について職員会議で共通理解をした後、生徒に使い方を指導する。生徒は帰りの会の前、「道標」に明日の教科連絡や日記などを記入して、翌日の朝、担任に提出する。毎日提出することで記入する習慣が定着し、忘れ物の減少や規則正しい生活習慣の確立につながった。また、生徒の日記に目を通すことにより、生徒の心の変化にも気付くことができた。

時	教科	宿題・準備物等	家庭学習	① 数学	宿題プリント	30分
10月	1 美術	えん筆	学習開始時刻 20:30	② 英語	自学ノート	30分
	2 国語	5点セット(千紙の復習)		③ 自学	国語の漢字	30分
21日	3 理科	問題用紙・5点セット		今日の私		
	4 数学	5点セット	今日の合唱コンクールでは、実は7つも取りびかっけけども来た			
	5 合唱		たしみんな練習以上に頑張っている			
	6 コンクール		たのびながら頑張ります			

【「道標」の記入例】

### (イ) ノーメディアデーと一中チャレンジウィークの取組

#### a ノーメディアデー

一中校区の小中学校4校(小学校3校、中学校1校)で連携してノーメディアデーを実施した。4校が連携してテレビやゲームから離れ、家族との時間や体を動かす時間、学習をする時間を取り戻したいと考え、学期に1回、次のような取組を実施した。

期間	月曜日から金曜日までの5日間の中から選ぶ。(何日でもよい)
方法	家庭の都合に合わせて、下記の4つのコースから、家庭でできるコースを選び、ノーメディアデーにチャレンジする。
コース	① 家庭で楽しく! 食事はノーテレビコース ② 夜(8時・9時)以降はノーテレビ・ノーゲームコース(時間を選ぶ) ③ 子どもが帰宅してからノーテレビ・ノーゲームコース ④ 1日中ノーテレビ・ノーゲーム! がんばりコース

#### b 一中チャレンジウィーク

PTA研修委員会を中心に、生徒・教職員・保護者そして地域が一体となり生活習慣の見直しと改善に取り組んだ。生徒の学力向上と夢実現、そして地域の教育力向上へとつなげるため、毎月1週間実施した。取組の内容は、起床時刻・学習開始時刻・就寝時刻を固定すること・ノーメディア・朝食摂取などである。

### (ウ) 正しい姿勢を習慣付ける取組

成長期にある子どもに正しい姿勢を習慣付けることは、健康面だけでなく学習面でも脳を活性化し集中力を高めるのでとても大切である。授業中に正しい姿勢を定着させるために、学習委員会による姿勢チェックの取組「ピタ・ゴラ・ス」を行った。

正しい姿勢を身に付けるためには、一人一人の体に合った机・椅子であるかどうかが重要である。そのため、4月当初だけでなく学期に1回程度、机や椅子を調整し、適合させていく取組を実施した。実施に際して、机・椅子の調整器具を1クラスあたり10本に増やし、学年によって期日を決めて取り組んだ。調整する時間帯は、各クラスで都合のよい時間を選び、昼休みや放課後などを利用して実施した。各クラスの保健委員も机・椅子の調整について呼びかけを行った。

クラスごとに取り組んでいたことを学校全体で取り組み始めたことで、正しい姿勢に対する意識が高まり、自分の机や椅子の適合について関心を持ち、進んで調整を申し出る生徒が増えてきた。



【机の調整の様子】

### (エ) う歯治療の取組

夏休み中のう歯治療は、治療の必要性は分かっているが、部活動や個人の事情が優先されることが多く、なかなか進まないのが現状である。そのため、昨年度からは担任だけでなく部活動顧問と連携してう歯治療に取り組むことにした。また、保護者に歯の治療票を配付するだけでなく、通知表にも「う歯要治療」欄を作成し、保護者の意識を高めるようにした。昨年度の8月の登校日には家庭の状況に配慮しながら治療について点検をしたが、結果が思わしくなかったため、冬休みにも歯の治療票を再配布して治療を促した。

【身体状況】	年齢	性別	項目	身長 (cm)	体重 (kg)	座高 (cm)	視力	右 A ( )		左 A ( )	
	13歳	男	比較	159.7	49.1	84.9		B 1.0以上	B 0.7~0.9	C 0.4~0.6	D 0.3以下
			全国平均								
		女	比較	154.9	47.3	83.7					
	本人			169.7 cm	53.3 kg	91.3 cm					歯 う歯なし・要治療 (→治療済)

【通知表の「う歯治療」欄の記入例】

### (オ) 食育の取組

給食委員会では残食ゼロ活動に以前から取り組んできた。具体的な取組としては、給食当番チェックカードに毎日の残食を記入し、翌日の給食活動時に該当クラスの給食当番に知らせたり、前日の各クラスの残量を知らせる放送を給食時間に行った。残食ゼロを達成するためには給食を食べる時間を十分に確保する必要がある。そのため、給食当番の給食受取時間の目標を4時間目終了後10分以内に設定し、順番もチェックカードに毎日記録した。

1学期の給食活動で、全クラス残食ゼロを達成できた日は7日間であった。残食ゼロが達成できなかった日でも、学校全体で極めて少ない日が多かった。

また、食に対する意識を高めるために、朝食の必要性を理解させる授業や中体連大会前には学校栄養職員によるスポーツにおける栄養の大切さを伝える授業を行った。



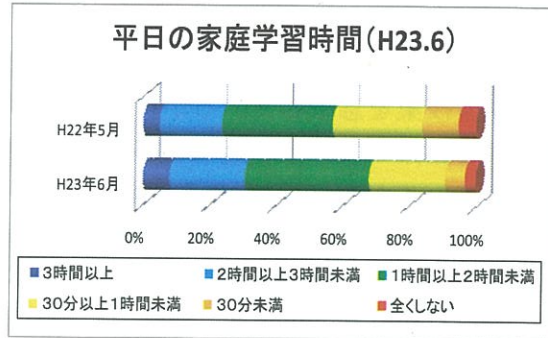
【給食受取の様子】

#### (4) 成果と課題

##### ア 成果

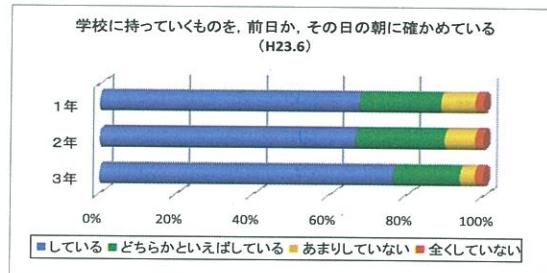
○ 平日の家庭学習1時間以上の生徒が、57% (H22年5月) から68% (H23年6月) へ11ポイント上がり (生徒質問紙)、家庭学習の習慣が以前よりも身に付いてきた。家庭学習に全生徒が取り組むことで、学年が上がり、クラスが変わってもスムーズに取り組む継続することができた。全職員で共通理解・共通実践することで、家庭学習に対する教師の意識も高まった。【グラフ6】

【グラフ6】



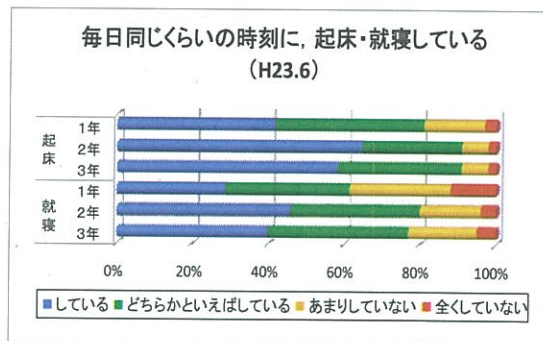
○ 「学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている」(生徒質問紙)の問いに、「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は、1年89%、2年90%、3年94%と高い数値を示した。前もって学習の準備をする習慣が身に付いてきた。【グラフ7】

【グラフ7】



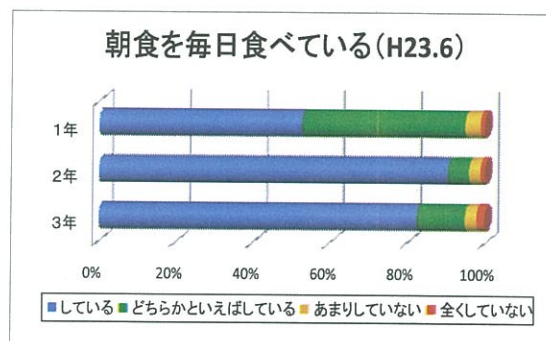
○ 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」(生徒質問紙)の問いに「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は、1年81%、2年91%、3年90%、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の問いに「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は、1年62%、2年80%、3年77%と、2・3年生は多くの生徒が規則正しい生活習慣を身に付けている。【グラフ8】

【グラフ8】



○ 「朝食を毎日食べている」(生徒質問紙)の問いに「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は、1年95%、2年96%、3年95%と全学年高い数値を示した。「している」と答えた生徒も、1年53%、2年91%、3年83%と2・3年生の数値が高かった。【グラフ9】

【グラフ9】



##### イ 課題

- 全体的に家庭学習の習慣は身に付きつつあるが、平日の家庭学習0時間の生徒が3%おり、家庭学習の習慣がほとんど身に付いていない生徒もいる。また、与えられた課題はしているものの、内容が充実していない生徒もいる。家庭との連携を図りながら、それぞれの生徒に合った学習方法を身に付けさせていく手立てが必要となってくる。
- ほとんどの生徒が「道標」を活用し、朝から提出することができている。しかし、まだ十分に活用できていない生徒もいる。継続的な指導が必要である。

### Ⅲ 研究の成果と課題

#### 1 成果

##### (1) 仮説①に関して

平成 22 年度「熊本県学力調査」に係る意識調査「熊本型授業を意識しているか」「県学力調査の結果や問題を協議しているか」「生徒の意見交換をする場を設けているか」「表現させる学習活動を行っているか」についての結果を見ると、学習規律を土台にして授業展開の工夫と言語活動の充実に取り組んできた授業充実プロジェクトにより、教師の授業改善の意識は確実に高まった。また、授業中の発表や話し合う活動の機会も増えてきた。(生徒質問紙) さらに、思考力・判断力・表現力の育ちを把握する指標として県学力調査の活用に関する問題の定着率を見ると、平成 22 年度は現 2 年生・現 3 年生ともに県平均を上回った。特に 3 年生では 1 年時から大きくポイントを上昇させた。授業充実プロジェクトの取組が生徒の学力向上につながった成果と言える。【グラフ 10】【グラフ 11】

##### (2) 仮説②に関して

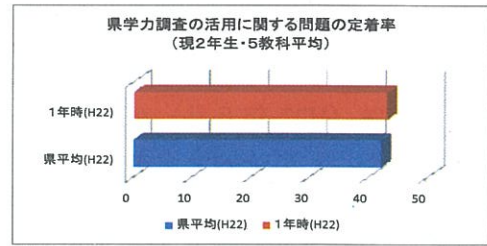
将来の夢や目標を持つ本校の生徒の割合(全国質問紙)は全国平均(H 22)よりも上回っている。特に 3 年生は肯定的な回答が 84%で顕著であった。これは本校が取り組んできた夢実現プロジェクトの成果と言える。また、本校の生徒は夢実現タイム(総合的な学習の時間)に対して役立つと感じながら取り組んでいた。同じく、学校でも好きな授業があり、前向きに学習に取り組んでいることも分かった。(生徒質問紙)これは普段の授業の様子からも手応えを感じることができる。すなわち、生徒に夢や目標を持たせていく取組が確実に学習意欲につながっていることが分かる。

【グラフ 12】【グラフ 13】

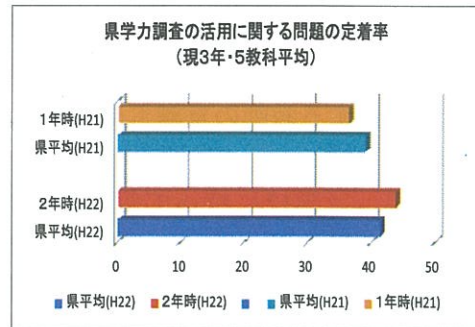
##### (3) 仮説③に関して

起床・就寝時刻の固定、事前に学校の準備をするなど、生徒の生活習慣が確立されるに伴い、家庭学習の習慣が身に付いてきた。また、授業の予習・復習、苦手な教科やテストで間違えたところを勉強するという学習の質の向上も見られるようになった。(生徒質問紙)特に、「自分で計画を立てて勉強をしていますか」という問いでは肯定的な回答が全国平均を 10 ポイント上回った。家庭学習の取組や道標の活用、家庭との連携など、学力定着プロジェクトの取組が成果を上げてきたと言える。【グラフ 14】

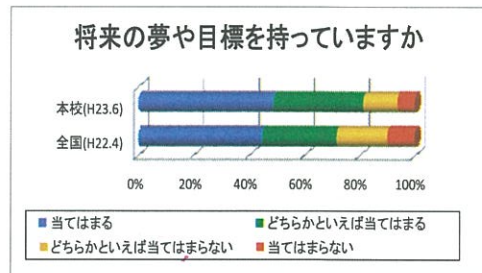
【グラフ 10】



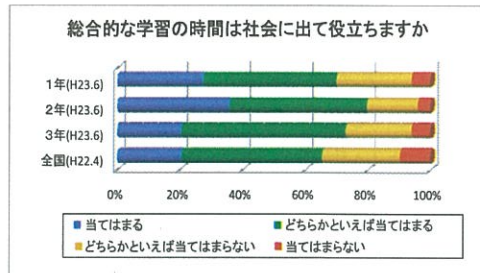
【グラフ 11】



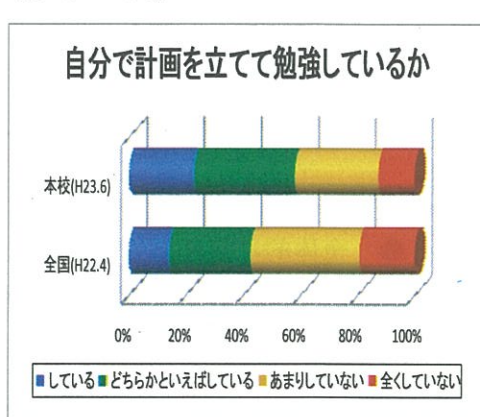
【グラフ 12】



【グラフ 13】



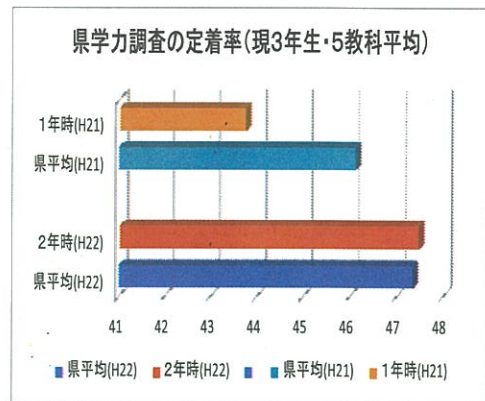
【グラフ 14】



#### (4) 仮説④に関して

それぞれのプロジェクトの成果から、教師の授業改善の意識が向上し、生徒の活用に関する問題の定着率も高まりつつある。また、本校の生徒は夢や目標を持ち、意欲的に学習に取り組めるようになった。そして、学力の定着に向け、生徒自らが計画的に勉強しようとする望ましい学習習慣も身に付いてきた。これら是一つ一つの取組が融合しながら得られた成果と考える。現3年生の県学力調査の定着率を見ると、1年時では県平均を下回っていたが、2年時では県平均を上回った。【グラフ15】

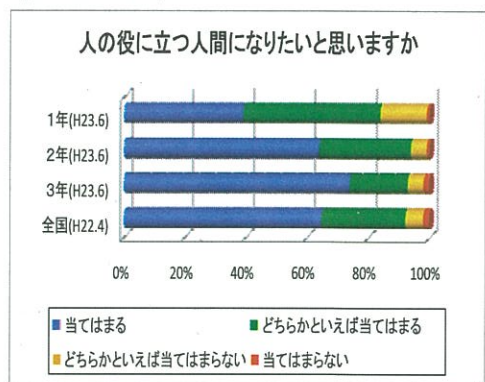
【グラフ15】



現2年生も県平均を上回り、学力充実の成果を確認することができた。

【グラフ16】

さらに、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」(生徒質問紙)という問いで、学年が上がるに従って高い数値を示した。特に3年生では7割以上が「当てはまる」と回答し、主体的に社会に参画しようとする生徒が育ってきたことの現れであると考え。



【グラフ16】

これまでの取組で、研究テーマ「学び 高め やり抜く生徒の育成～夢実現に向けた学力充実の取組～」に一歩近づくことができたと考え。

## 2 課題

### (1) 仮説①に関して

授業充実プロジェクトでも一定の成果は見られたが、学習規律・授業展開の工夫・言語活動の充実ともに不十分な点が残る。今後も、よりよい指導法を模索していかねばならない。また、思考力・判断力・表現力が育ったかどうかを検証する方法も研究の余地がある。

### (2) 仮説②に関して

将来の夢や目標を持つ生徒がいる一方で、未だ2割近くの生徒が持つことができていない現状がある。夢実現プロジェクトの取組も生徒一人一人に寄り添いながら進めていく必要性を感じる。夢実現タイムの取組、関連づけた道徳や学活の実践など、更なる工夫が求められる。

### (3) 仮説③に関して

学力定着プロジェクトの取組である平日の家庭学習も1時間未満の生徒が3割存在する。小中連携や家庭との連携が今まで以上に必要となってくる。中学校での受け入れ態勢や、家庭との連携も一律な方法だけでなく、実態に応じた支援が求められる。

### (4) 仮説④に関して

研究全般の成果は得られつつあるが、本校の三綱領「至誠貫徹・真理探究・耐久持続」を実践している「学び 高め やり抜く 生徒」ばかりではない。一中生徒の「夢実現に向けた学力充実」という一中職員の「夢実現」に向け、これからも研究を積み上げていきたい。

## おわりに

本校は、平成22・23年度の熊本県教育委員会指定・八代市教育委員会委嘱を受け、「生きる力」を育む研究指定校「学力充実推進校」として「学び 高め やり抜く生徒の育成 ～夢実現に向けた学力充実の取組～」のテーマを掲げ2年間にわたり研究推進に努めて参りました。

本校では、「夢実現 学び 高め やり抜く チャレンジー中」を教育スローガンとして取り組み、今年度で4年目を迎えます。そのスローガンの具現化のため、学び部会・高め部会・やり抜く部会の3つの部会を設け研究を進めて参りました。研究始めは、教職員の共通理解・共通実践をどのように図るか、生徒に夢を持たせるための取組をどのようにするか、難しい部分もありました。しかし、職員がまとまり、大規模校の活力と豊かな個性によりここまで研究を進めてくることができました。

その結果、生徒の意識の変革が確実に行われ、アンケート結果からも、生徒が夢を持ちその実現に向けた動きを進めてきていることがうかがえました。この取組は生徒の将来の夢実現へとつながることと確信しています。

しかし、本校の研究はまだ途上であり、これまでの研究実践から成果とともに課題も多く出てきました。この発表会を機に研究と実践を整理し、これまで以上に全職員が一丸となって日々の教育活動に取り組み、生徒とともに夢実現に向けチャレンジして参ります。

最後になりましたが、本校の研究推進に当たりまして、ご指導ご助言を賜りました熊本県教育委員会、八代教育事務所、八代市教育委員会をはじめ多くの先生方に感謝し、心より御礼申し上げます。

### 〈 研究同人 〉

#### 【平成23年度】

太田篤洋	押方信博	高嶋宏幸	坂本陽子	島崎 修	前田浩代
松本 朗	沖村洋子	佐藤絹子	宮端葉子	松岡幸博	濱田真由美
村岡憲治	本田昌美	永井利邦	早 徹也	山口敬介	宮田正男
藤本知佳子	百田哲也	中村亜弓	馬淵隆幸	橘 香代	河添真紀
浦上友紀	安部浩二	飯田豊宏	吉仲一朗	西山めぐみ	瀧川尚樹
増田 彩	村上ふみ	下尾剛史	甲斐大樹	上村萌子	江口 翔
岡田拓也	森川 繁	濱田小百合	田中茂都美	近松五月	杉本泰成
早水飛鳥	小野靖子	尊田裕子	村岡正裕	梅木伸太郎	川野健太郎
松永祐徳	菊川保之	高野浩美	田北由加里	西崎智子	西岡真奈美
小松由加子	秋吉重実	水原奈緒美	山内笑子	米村由美子	

#### 【平成22年度】

古閑賢治	諸井逸郎	曲野美智代	川口誠一郎	西村敏昭	園田英雄
平住民恵	橋口るみ	手島光裕	瀧川智子	片山裕明	村岡美紀子
内田寛子	坂口修一	樋口憂子			